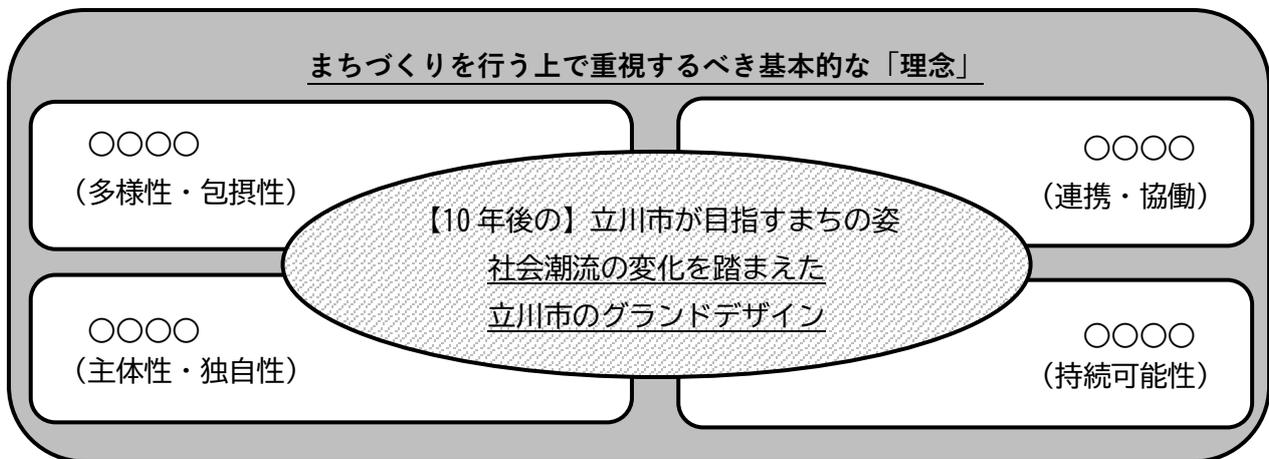


1. 計画体系

【未来ビジョン】



【まちづくりコンセプト】

案1 政策の性格でまとめる

- 都市と自然が調和し、誰もが安心とやすらぎを実感し続けるまちづくり
- 集いとつながりにより新しい価値を創造し、挑戦し続ける魅力あふれるまちづくり
- 市民に寄り添い、積極的な連携や改革により新たな時代を切り拓く、持続可能なまちづくり

案2 政策の親和性でまとめる

- 子どもと大人がともに育ち、学び続けられるまちづくり
- 都市と自然が共存し、次世代にわたり快適に暮らせるまちづくり
- あふれる魅力に人々が集い、挑戦し、価値を創造するまちづくり
- 誰もがつながり、安心して暮らせるしなやかで優しいまちづくり
- 新たな時代を切り拓き、多摩と未来への責任を果たすまちづくり

【政策】



2. 未来ビジョン策定のための基本理念案

〇〇〇〇（多様性・包摂性）

多様性を認め合い、誰一人取り残さず、お互いに支え合うことによって、誰もが安心して幸せを実感して暮らすことができるまちにつながります。

<審議会の意見>

- ・弱いものを置き去りにしない
- ・多様性
- ・包摂的成長
- ・みんなで支え合い、だれひとり取り残さないまちづくり
- ・世代間ギャップや多様性、個性、人種、能力の違い、お互いに違うことを認め合いながらコミュニケーションや連携をする

<市民WSの意見>

- ・年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち（A班）
- ・だれもが主役つながるまち立川ワンダーランド（C班）
- ・だれもが歩みよりつながるいごちよいまち立川（D班）
- ・学びや文化を通じてだれもが生きいきと過ごせる町（D班）
- ・認めあい誰もとりのこさない町（D班）
- ・相互理解でつながる町（D班）
- ・誰もが幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川（E班）
- ・多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川（E班）
- ・安心して暮らせる思いやり思いあうおたがいさまの「やっぱり立川」（E班）
- ・なつかしくてあたらしくてやさしいまち立川（F班）

〇〇〇〇（連携・協働）

人や企業が主体的に連携し、イノベーションを生み出すことにより立川らしいまちの発展につなげるとともに、地域においてもお互いが結びつくことにより安心して暮らし続けられるやさしい社会につながります。

<審議会の意見>

- ・連携
- ・様々な世代の意見が吸い上げられる仕組み
- ・行政と住民とが柔軟に取り組む
- ・だれもが、ともに、つながる
- ・市民力
- ・コミュニケーション力
- ・様々な地域資源が協働できる市民力

- ・地域の寛容性を広げていく
- ・市民としての責任感を持ち、積極的かつ主体性を持って参画する
- ・田舎と都会の中間、立川らしい新しい価値のコミュニティ
- ・緩やかな、都合のよい絆を認め、自由に、ストレスなく、不安なくつながれる社会
- ・地域愛
- ・みんなで参画できるまち

<市民WSの意見>

- ・互いに発信し、交流できるまち (A班)
- ・まちと共に育つ (B班)
- ・地域とつながり育っていく。成長していくまち (B班)
- ・だれもが主役つながるまち立川ワンダーランド (C班)
- ・地域をつなぎ、人が行き交うまち (C班)
- ・共に暮らすまち・共に助け合うまち (C班)
- ・だれもが歩みよりつながるいごちよいまち立川 (D班)
- ・相互理解でつながる町 (D班)
- ・多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川 (E班)
- ・多摩地域連携のハブ都市 (F班)
- ・広域連携で生産性が高く効率のよいまち (F班)
- ・支援を必要とする人を地域が支える！！ (G班)
- ・地域連携による住みやすいまち (G班)

〇〇〇〇 (主体性・独自性)

主体的にチャレンジできる土壌と雰囲気醸成することにより、他とは異なる独自性を生み出し、次代をリードするまちにつながります。

<審議会の意見>

- ・商業圏と農業圏が近接していることを最大限に活用
- ・にぎやかなまちの維持
- ・発信力

<市民WSの意見>

- ・住めば幸せ来ても幸せ“あの立川” (A班)
- ・活気あふれる“あの立川”と言われるまち (A班)
- ・とりあえず立川。(B班)
- ・また遊びに来たくなる街 (B班)
- ・インスタ映えまちがいなし！！活気あふれる街 (B班)
- ・だれもが主役つながるまち立川ワンダーランド (C班)
- ・地域をつなぎ、人が行き交うまち (C班)

- ・ 知りたい！が届くまち (C 班)
- ・ やりたい！を応援するまち (C 班)
- ・ コンビニエントファームシティ (D 班)
- ・ みらいのたねが育ち豊かでワクワクする可能性に挑戦できる立川 (E 班)
- ・ 挑戦し、未来のたねをまく、イノベーションがおきる「行きたいところに行けるじゃん」
(E 班)
- ・ 多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川 (E 班)
- ・ 誰もが幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川 (E 班)
- ・ 心豊かな住みつけたい魅力ある発展するまち立川 (G 班)

〇〇〇〇（持続可能性）

今ある立川市の資源を未来、次の世代へ責任を持って引き継いでいくことを意識した行動と選択を継続することにより、持続可能な社会につながります。

<審議会の意見>

- ・ 成長・発展
- ・ 子ども目線のまちづくり
- ・ 若者が魅力を感じるまちづくり
- ・ 大人になって戻って来たくなるまち
- ・ 今だけではなく、未来を考える
- ・ 未来への責任、持続可能性

<市民WSの意見>

- ・ 地域とつながり育っていく。成長していくまち (B 班)
- ・ 多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川 (E 班)
- ・ 広域連携で生産性が高く効率のよいまち (F 班)
- ・ 心豊かな住みつけたい魅力ある発展するまち立川 (G 班)
- ・ 地産地消で自立するエネルギーを基盤とする街 (G 班)
- ・ 財政基盤の持続的発展を目指すまち (G 班)

3. まちづくりコンセプト（都市像）案

【案1】政策の性格でまとめる

1. まちづくりコンセプト（都市像）案

<まちづくりコンセプト1>【自治体共通】

都市と自然が調和し、誰もが安心とやすらぎを実感し続けるまちづくり

<まちづくりコンセプト2>【自治体付加価値】

集いにつながりにより新しい価値を創造し、挑戦し続ける魅力あふれるまちづくり

<まちづくりコンセプト3>【自治体運営】

市民に寄り添い、積極的な連携や改革により新たな時代を切り拓く、持続可能なまちづくり

2. まちづくりコンセプト（都市像）案設定理由

<まちづくりコンセプト1>【自治体共通】

都市と自然が調和し、誰もが安心とやすらぎを実感し続けるまちづくり

【自治体共通の取組について】

充実した都市機能と豊かな自然環境が調和する快適な暮らしを次世代に引き継ぐため、都市インフラの計画的な整備や環境に配慮したまちづくりを進めます。また、未来を担う子どもたちをはじめ、世代や性別、国籍、障害の有無などに関係なく、誰もがいきいきと安心して、やすらぎを実感し続けることができるまちを目指します。

【都市と自然が調和し】

- ・ JR 立川駅を中心とした充実した都市機能と砂川地域を東西に広がる農地や玉川上水・多摩川・残堀川、国営昭和記念公園といった豊かな自然環境が共存していることは立川の特徴です。これからの10年もこの快適な環境を守るためには、都市インフラの計画的な整備や2050年カーボンニュートラルを見据えた環境に配慮したまちづくりが必要です。
- ・ 審議会では、第2回・第3回で「再生可能エネルギーのさらなる推進」や「脱炭素」など自然環境に関する発言がありました。また、第4回では、立川市の特徴として「都市機能と自然環境が共存したまち」に関する意見が多くありました。
- ・ 市民ワークショップでは、「自然と人が共存するまち」（A班）、「自然豊かで人も都市もしなやかで強く心が深呼吸できるまち」（E班）など、都市と自然の共存に関する都市像が提案されました。
- ・ 高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「みどり豊か」、「自然が豊かなまち」、「私が行きたいまち」として「星が見える」、「季節毎に景観を楽しめる」など自然に関する意見がありました。

- ・中学生アンケートでは、「都市と自然の共存」に関するキャッチフレーズが多く出されました。
- ・令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策分野は何だと思いますか」という質問に対して、「環境」に関する回答が13.7%、「都市基盤」に関する回答が9.5%ありました。

【誰もが】

- ・第2回・第3回審議会では、「外国人」や「LGBTQ+」、「男女平等参画」など「人権」に関する意見がありました。また、第4回審議会では、「立川市の特徴をどのようにいかしていくか又はどのような価値を新たに創り出していくか」というテーマに対して、若者から高齢者まで、多様な世代が市政に参画することが大切だとする意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、将来像として「だれもが主役つながるまち～立川ワンダーランド～」(C班)、「だれもが歩みよりつながるいごこちよいまち立川」(D班)、都市像として「学びや文化を通じてだれもが生きいきと過ごせる町」(D班)、「認めあい誰もとのこさない町」(D班)、「誰もが幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川」(E班)と「誰もが」というフレーズが多く見られました。また、「年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち」(A班)、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)、「格差のない多様な学びと文化推進するまち」(G班)といった「多様性」に関する都市像もありました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「外国人も暮らしやすい」など多様性に関する意見がありました。
- ・中学生アンケートでは、「誰もが誰とでも差別の無いように暮らす立川市」、「どんな年代の人も暮らしやすい都市立川」など、多様性を尊重する意見がありました。
- ・次世代職員ワークショップでは、「大人も育つ立川」、「ユニバーサルシティ・タチカワ」、「誰でも誰かとながれるまち」といった、誰一人取り残さないことに関連した都市像が提案されました。

【安心とやすらぎ】

- ・「子ども・子育て」、「教育」、「市民生活」、「社会福祉」、「健康・医療」などあらゆる政策分野において、すべての市民が「安心とやすらぎ」を実感することができるまちを目指します。
- ・第2回・第3回審議会では、「子どもが安心できる場所」、「災害に強いまち」、「駅周辺の治安」、「高齢社会への不安」、「何でも相談できる」など、「安心」につながる意見が多くあり、第4回審議会では「行政が創り出す価値の基本は『安心安全』」とする意見もありました。また、高齢化が進展していく中での移動ニーズの変化への対応に関連する意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、「やりたいことが自然と見つかる幸せなまち」(A班)、「笑顔あふれる街」(B班)、「共に暮らすまち・共に助け合うまち」(C班)、「子どもが緑の中で安全安心に遊べる町」(D班)、「安心して暮らせる思いやり思いあうお互いさまの『やっぱ

り立川』(E班)、「みんなの顔が見える・助け合う」(F班)、「支援を必要とする人を地域が支える」(G班)といった「安心」や「やすらぎ(≒快適さ)」につながる都市像が提案されていました。

- ・高校生ワークショップでは、「安心」に関連して「安心・安全・豊かなまち」、「災害に強い」、「夜1人で歩ける」、「やすらぎ(≒快適さ)」に関連して「住みやすさナンバー1立川」「だれでも落ち着ける街」、「住民の仲がいい」、「キレイな環境」といった意見がありました。
- ・中学生アンケートでは、「安心して暮らせる」、「災害に負けない」、「住みやすく和気あいあい」など、「安心」と「やすらぎ(≒快適さ)」に関する意見が多く寄せられました。
- ・令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策分野は何だと思いますか」という質問に対して、「子ども」に関する回答が32.6%、「福祉・保健」に関する回答が26.0%、「安全」に関する回答が4.9%ありました。

【実感し続ける】

- ・第4回審議会では、まちづくりを行う上で重視すべき理念として、「未来への責任」「持続可能」など、自分たちの世代だけではなく、次の世代を考えることが、共通した理念であるという意見がありました。
- ・市民ワークショップでは、「まちと共に育つ」(B班)、「子どもが緑の中で安全安心に遊べる町」(D班)、「子どもが第一のまち！！(オトナも大事!)」(F班)など、子どもに関する都市像が多く提案され、どの班も子どもを重要な政策として捉えていました。子育てや教育の充実により、未来を担う子どもたちが健やかに育ち、子どもたちがまちの主役となる時代に、「都市と自然の調和」や「安心とやすらぎ」を引き継ぎたいという想いを込めました。
- ・中学生アンケートでは、「立川から世界に考えようSDGs」や「100年先でも安心して暮らせる立川市」など、持続可能性に関するキャッチフレーズの提案がありました。

<各検討組織の議論から抽出したキーワード>

【子ども・子育て】分野

○妊娠期から出産・子育てまで ○負担や不安を和らげる ○学童保育所の待機児解消
○保育施設の適正配置 ○子育て・健康複合施設 ③仕事と子育ての両立 ②育成とコミュニティの結びつけ ③楽しく安全に遊べる場所 ○まちと共に育つ ○共に暮らす・共に助け合う ○安全安心に遊べる ○誰もが幸せに育ち ○子どもが第一(オトナも大事) ○大人も育つ ○子育てがしやすい ○大人も子供も笑顔がいっぱい ○家族が住みやすい ○たのしく、いきいきと暮らせる

【教育】分野

○ICT 機器等の効果的な活用 ③不登校支援に対する配慮 ③地域を支える市民性を高める ③学校・家庭・地域の連携による教育力の向上 ②ボランティアによる学習支援

③安心して勉強ができる場所 ○やりたいことが自然と見つかる ○共に育つ ○だれもが生きいきと ○誰もが幸せに育ち学べる ○子どもが第一（オトナも大事） ○格差のない多様な学び ○居場所 ○子供の未来 ○教え合う ○優秀な人材が育つ環境
④食育

【市民のくらし】分野

○大規模災害の備え ○レジリエンス強化 ○体感治安の向上 ○地域の担い手不足
○多文化共生意識の向上 ②地域のつながり ②コミュニティの向上 ③災害に強いまち ②自治会の加入率低下 ②コミュニティ ②外国人の子どもの支援 ③持続可能な地域活動 ③人権 ②駅周辺の治安 ③災害の啓発 ○国籍に捉われず多様性を受け入れる ○笑顔あふれる ○安全安心に遊べる ○相互理解 ○しなやかで強く ○多様性の尊重 ○つながりつながる ○災害に強い ○地域連携 ○市民が創る ○住民の仲がいい ○外国人も暮らしやすい ○夜1人で歩ける ○人が来るけど安全 ○安心して暮らせる ○災害に負けない ○住みやすく和気あいあい ④ゆるやかなつながり
④親交的コミュニティ

【環境】分野

○カーボンニュートラル ②持続可能の視点 ②SDGs の観点 ②自然エネルギー ②脱炭素 ③再生可能エネルギーのさらなる推進 ②球技や花火ができる公園 ②ボール遊びや手持ち花火ができる公園 ○自然と人が共存する ○緑の中で安全安心に遊べる ○自然豊か ○心が深呼吸できる ○公園が繋がる ○緑豊か ○エネルギーを基盤とする街 ○水がきれいで、おいしい ○星が見える ○自然と共存 ○持続可能 ○緑あふれるクリーン ④森林保全 ④GX ④環境教育

【都市づくり】分野

○有機的なネットワーク ○外出困難等の移動 ②都市機能から連なる自然 ②交通結節点 ②高齢化により変化する移動ニーズ ②南北の交通渋滞 ②自動運転 ③市内の交通のあり方 ○便利に移動 ○多摩地域連携のハブ都市 ○ユニバーサル ○交通の利便性が高い ○駅のまわりだけでなく立川市全体を住みやすく ④自転車

【都市基盤】分野

○下水道施設更新 ○都市計画道路 ②歩道が狭い ○ユニバーサル ○道が広い ○誰でも快適 ④補修や更新にAI画像解析やセンサーを活用 ④街路樹の再生・更新 ④街路灯を増やしてほしい

【社会福祉】分野

○重層的支援 ○支え合いの地域づくり ○介護予防 ○フレイル予防 ○認知症対策
○生活困窮者等への自立支援 ②人にやさしく ②高齢社会への不安 ③何でも相談で
きる ③相互理解 ③多様性の時代 ③単身世帯の外国人 ②高齢者の活躍の場 ③単
身世帯の高齢者 ○年齢に捉われず多様性を受け入れる ○地域とつながり ○共に暮
らす・共に助け合う ○誰もとりのこさない ○おたがいさま ○助け合う ○地域が
支える ○誰でも誰かにつながる ○どんな年代の人も ○助け合いの輪 ○みんな
が支え合い ④ゆるやかな見守り ④地域包括ケアシステム ④介護保険 ④在宅緩和
ケア ④超高齢多死社会 ④オーラルフレイル

【健康・医療】分野

○介護人材の確保・育成 ○介護サービス基盤の整備 ○介護予防 ○フレイル予防
○認知症対策 ③ポストコロナの医療体制 ③新興感染症対策 ③サージキャパシティ
の確立 ②特定検診や歯の検診 ②感染症に対する医療体制 ②緊急医療養護所 ④後
期高齢者医療制度 ④介護保険 ④在宅医療 ④訪問診療 ④訪問歯科診療 ④オーラ
ルフレイル ④看取り ④アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

<まちづくりコンセプト2>【自治体付加価値】

集いとつながりにより新しい価値を創造し、挑戦し続ける魅力あふれるまちづくり

【立川市独自の付加価値について】

立川のまちは魅力にあふれ、交通結節点という立地条件も相まって多くの人や企業が立川に集まっています。立川に住む人だけでなく、立川を訪れる人や企業が出会い、つながり、様々なことに挑戦することで新たな価値を生み出します。また、恵まれた立地条件を十分に生かして多摩地域発展の一翼を積極的に担い、発展し続けるまちを目指します。

【集い】

- ・第4回審議会では、立川の魅力や「交通結節点」といった立地条件により、多くの人が集まることが立川の特徴であるとする意見が多くありました。
- ・市民ワークショップでは、「活気あふれる“あの立川”と言われるまち」(A班)、「インスタ映えまちがいなし！！活気あふれる街」(B班)、「多摩地域のハブ都市」(F班)のように、人が集まりにぎわうまちをイメージした都市像が提案されました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が行きたいまち」として「にぎやか立川」や「歩いていだけで楽しいまち」、「ネットに負けない街」など、人が集まりにぎわうまちのキャッチフレーズが提案されました。
- ・中学生アンケートでは、「にぎやかで豊かな生活ができる立川」、「人との交流たくさんの立川市」など、にぎわいや交流に関する意見が寄せられました。

【つながり】

- ・審議会では、「地域のコミュニティ」についての意見が多くありました。住民以外の多くの人が集まる立川の特徴に着目し、立川在勤・在学者などの立川を訪れる人も市民として受け入れ、新たな地域の担い手となってもらう発想で臨むべきという提案もありました。一方で、「選択的・機能的・ネットワークコミュニティを打ち出していく」、「緩やかなつながりや都合のよい絆を認め、自由に、ストレスなく、不安なくつながれる社会が必要」といった、無理なくゆるやかにつながることができる新しい形のコミュニティに関する議論がありました。
- ・市民ワークショップでは、「地域とつながり育っていく。成長していくまち」(B班)、「地域をつなぎ、人が行き交うまち」(C班)、「相互理解でつながる町」(D班)、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)といった都市像や「だれもが主役つながるまち～立川ワンダーランド～」(C班)、「だれもが歩みよりつながるいごちよいまち立川」といった将来像など、「つながる」というキーワードが非常に多く見られました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「住民の仲がいい」、「地域住民対象のイベントがある」など、地域のつながりに関する提案がありました。
- ・中学生アンケートでは、「住みやすく和気あいあいしている立川市」など、地域のつながりに関する意見がありました。

- ・次世代職員ワークショップでは、「誰でも誰かとつながれるまち」という市と市民・事業者との協働に関する都市像が提案されました。

【新しい価値を創造し、挑戦し続ける】

- ・審議会では、『『起業』が立川のキーワードになる』といった意見をはじめとして「創業」が今後の立川の強みとなるという意見がありました。また、「都心に依存しない雇用をここに産むという意味は大きい」、「人口のピークを後ろにずらしつつ市を維持するためにも、雇用を産む、創業を産むというのは必要。」という意見がありました。農業については、「産業と自然を共存させて、立川らしいイノベーションを起こしていく。」という意見もありました。さらに、「多様な世代、若者がにぎわっていて、それを行政が支えていくこと、「協働」や「連携」の話になるが、新たな価値になる。」といった「人」に注目した意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、「やりたいことが自然と見つかる幸せなまち」(A班)、「やりたい！を応援するまち」(C班)、「挑戦し、未来のたねをまく、イノベーションがおきる『行きたいところに行けるじゃん』」(E班)といった都市像や「みらいのたねが育ち豊かでワクワクする可能性に挑戦できる立川」(E班)といった将来像など、「挑戦」に関する提案が多くありました。
- ・令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策分野は何だと思いますか」という質問に対して、「産業」に関する回答が6.0%ありました。

【魅力あふれる】

- ・第4回審議会では、「都市機能と自然環境の共存」が立川市の魅力だとする意見が多くあり、その資源をさらに伸ばしていくべきであり、シティプロモーションなどでその魅力をしっかりアピールしていくことが必要であるという意見がありました。
- ・市民ワークショップでは、「心豊かな住みつづきたい魅力ある発展するまち立川」(G班)など、立川の魅力に関する将来像が提案されました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が行きたいまち」として「歩いているだけで楽しいまち」や「ネットに負けない街」など、魅力的なまちに関する提案がありました。
- ・中学生アンケートでは、立川のキャッチフレーズとして、「誰もが住みやすい、魅力あふれる立川」、「日本で一番魅力的な都市 立川」、「魅力あふれる立川市」など、立川が魅力的であることを表現した提案がありました。

【多摩地域発展の一翼を積極的に担い、発展し続けるまち】※説明文

- ・立川は「交通結節点」として恵まれた立地条件を生かして、発展してきました。人口減少が本格的に進展するこれからの時代は、周辺市など多摩地域の自治体との広域連携の重要性が高まります。多摩地域の中心のまちとして、多摩地域全体の発展を念頭に置いて政策を推進することが必要です。
- ・第4回審議会では「立川という立地を生かし、官民連携・広域連携をし、立川の産業のシ

ンボルとして創業を位置づけ、産業を盛り上げる。」といった広域連携に関する意見がありました。また、紹介された立川商工会議所の将来ビジョンは「立川広域都市圏の経済を将来にわたり持続的に発展させる」としています。

- ・市民ワークショップでは、「多摩地域連携のハブ都市」(F班)、「広域連携で生産性が高く効率のよいまち」(F班)という広域連携に関する都市像が提案されました。

<各検討組織の議論から抽出したキーワード>

【産業・文化・スポーツ】分野

○事業継承 ○農地の有効活用 ○医療・介護とスポーツの連携 ②北側の農業地域、中間の商業地位、多摩川沿いの地域 ③創業するなら立川 ③都心に依存しない雇用 ③雇用を産む、創業を産む ②シリコンバレー ②AIの集積 ③河川のあるアクティブな暮らし ③交流人口 ○食べたいものが食べられる ○活気あふれる ○インスタ映え ○また遊びに来たくなる ○やりたい!を応援する ○人が行き交うまち ○コンビニエントファーム ○挑戦 ○イノベーション ○地産地消で自立する ○多様な文化 ○商店街のにぎわい ○働きやすい ○スポーツ観戦 ○町全体が美術館 ○にぎやか ○交流 ○伝統を守る ○文化と暮らしの融合 ④エコミュージアム ④スポーツに親しめる場づくり

【市民の暮らし】分野

○大規模災害の備え ○レジリエンス強化 ○体感治安の向上 ○地域の担い手不足 ○多文化共生意識の向上 ②地域のつながり ②コミュニティの向上 ③災害に強いまち ②自治会の加入率低下 ②コミュニティ ②外国人の子どもの支援 ③持続可能な地域活動 ③人権 ②駅周辺の治安 ③災害の啓発 ○国籍に捉われず多様性を受け入れる ○笑顔あふれる ○安全安心に遊べる ○相互理解 ○しなやかで強く ○多様性の尊重 ○つながりつながる ○災害に強い ○地域連携 ○市民が創る ○住民の仲がいい ○外国人も暮らしやすい ○夜1人で歩ける ○人が来るけど安全 ○安心して暮らせる ○災害に負けない ○住みやすく和気あいあい ④ゆるやかなつながり ④親交的コミュニティ

【都市づくり】分野

○有機的なネットワーク ○外出困難等の移動 ②都市機能から連なる自然 ②交通結節点 ②高齢化により変化する移動ニーズ ②南北の交通渋滞 ②自動運転 ③市内の交通のあり方 ○便利に移動 ○多摩地域連携のハブ都市 ○ユニバーサル ○交通の利便性が高い ○駅のまわりだけでなく立川市全体を住みやすく ④自転車

＜まちづくりコンセプト3＞【自治体運営】

市民に寄り添い、積極的な連携や改革により新たな時代を切り拓く、持続可能なまちづくり

【自治体運営について】

持続可能な自治体運営の実現のため、今後10年間のみならず、さらにその先を見据えると、人口減少や少子高齢化の進展など、立川市がこれまで経験したことのない時代の到来が予測されます。この難局を乗り越えるため、社会潮流の変化に対応した政策を機動的に実行するとともに、市民に寄り添いつつ、積極的な自治体連携・官民連携により行財政改革を推進し、効果的・効率的な自治体運営により持続可能なまちを目指します。

【市民に寄り添い】

- ・第4回審議会では、「市民との協働でサービスを充実させていくべき」、「市民、行政、企業が協働していく必要がある」、「市民力の活躍、市民主役のまちづくり」、「立川市は若者から高齢者までみんなが活躍している」、「市民力の元にあるコミュニケーションが重要」、「様々な地域資源が協働できる市民力」など、市民と行政の協働によるまちづくりの重要性に関する意見が多くありました。また、「市民」の定義について、在住市民だけではなく、在勤市民や在学市民、企業市民（立川市はここが強い）も取り入れる発想で臨むべきとする意見がありました。
- ・市民ワークショップでは、「知りたい！が届くまち」（C班）として「市民と行政が一緒になって情報を届ける仕組み」や「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」（E班）として「市民活動の活性化で立川の底力を感じさせる！」といった市民と行政の協働に関する意見がありました。
- ・次世代職員ワークショップでは、「市民が創るまぶしいまち」、「みんなでつくるまち“立川”」といった市と市民・事業者との協働に関連した都市像が提案されました。

【積極的な連携（自治体連携・官民連携）や改革】

- ・第4回審議会では、「市民、行政、企業が協働していく必要がある」といった官民連携に関する意見や、「立川という立地を生かし、官民連携・広域連携をし、立川の産業のシンボルとして創業を位置づけ、産業を盛り上げる。」といった広域連携に関する意見がありました。また、紹介された立川商工会議所の将来ビジョンは「立川広域都市圏の経済を将来にわたり持続的に発展させる」としています。
- ・市民ワークショップでは、「多摩地域連携のハブ都市」（F班）、「広域連携で生産性が高く効率のよいまち」（F班）という広域連携に関する都市像が提案されました。

【新たな時代を切り拓く】

- ・第4回審議会では、第5次長期総合計画の計画期間となる次の10年は、人口減少や少子高齢化の本格的な進展などにより、厳しい行政運営となることが共通認識としてありました。立川市がこれまで経験したことのない、困難な時代に挑む意気込みを「新たな時代

を切り拓く」という力強いメッセージに込めました。

【持続可能】

- ・第4回審議会では、困難な時代を乗り越えるための方策として、人口減少に対しては、「立川在勤・在学者や健康なアクティブシニアに活躍してもらう」という新たな地域の担い手についての意見や「立川市が魅力的な自治体となり、社会増を増やす」といった立川市の現在の特徴である昼夜間人口比率の高さや社会増の多さに着目した意見が出されました。財政運営に対しては、支出の削減に関して「公共施設の機能の集約」、「必要なサービスの精査」、「自治体DXの推進」についての意見がありました。一方で、税収を増やす意見として「立川を魅力あるまちにする」、「まちの稼ぐ力をつくる」、「高齢者の社会参加を促進する」といった積極的な意見もありました。また、まちづくりを行っていくうえで重視すべき理念として、「若者・子どもの視点」、「包摂的成長」、「市民としての責任感」、「コミュニケーション」といった理念があげられましたが、それらに共通するものとして『『未来への責任』、『持続可能』など、自分たちの世代だけではなく、次の世代を考えている』とする意見がありました。
- ・市民ワークショップでは、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)、「財政基盤の持続的発展を目指すまち」(G班)といった持続可能性に関する都市像が提案されました。
- ・中学生アンケートでは、「100年先でも安心して暮らせる立川市」という持続可能性に関する提案がありました。

<各検討組織の議論から抽出したキーワード>

【総合戦略】分野

○民間活力 ○広域連携 ○デジタル化 ○効率的・効果的な自治体運営 ○公共施設の再編 ○デジタルデバインド対策 ○多様な性への対応 ②デジタルの観点 ②双方向のコミュニケーション ②データが円滑に流通できる仕組み ③LGBTQ+など、多様な性への理解の高まり ③人権の分野で遅れている ②立川の情報が伝わりにくい ○あの立川 ○インスタ映え ○知りたい!が届く ○持続可能 ○生産性が高く効率のよい ○みんなでつくる ○最新技術 ○SDGs ○100年先でも安心して暮らせる

【行政運営】分野

○持続可能 ○生産性が高く効率のよい ○公共施設 ○100年先でも安心して暮らせる ④施設更新にAI画像解析やセンサーを活用 ④コンプライアンス ④投票率の向上

【財政運営】分野

○将来負担増、市税の減少 ③地域に人が訪れ、財政基盤が豊かになる ○持続可能 ○財政基盤の持続的発展 ○100年先でも安心して暮らせる

【案2】政策の親和性でまとめる

1. まちづくりコンセプト（都市像）案

＜まちづくりコンセプト1＞【子ども・子育て】【教育】
子どもと大人がともに育ち、学び続けられるまちづくり

＜まちづくりコンセプト2＞【環境】【都市基盤】【都市づくり】
都市と自然が共存し、次世代にわたり快適に暮らせるまちづくり

＜まちづくりコンセプト3＞【産業・文化・スポーツ】
あふれる魅力に人々が集い、挑戦し、価値を創造するまちづくり

＜まちづくりコンセプト4＞【市民生活（くらし）】【社会福祉】【健康・医療】
誰もがつながり、安心して暮らせるしなやかで優しいまちづくり

＜まちづくりコンセプト5＞【総合戦略】【行政運営】【財政運営】【競輪】
新たな時代を切り拓き、多摩と未来への責任を果たすまちづくり

2. まちづくりコンセプト（都市像）設定理由

＜まちづくりコンセプト1＞【子ども・子育て】【教育】
子どもと大人がともに育ち、学び続けられるまちづくり

未来を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに関わる人も一緒に成長できるように、子どもから大人まで、すべての人に寄り添ったきめ細やかな支援を行います。また、大人になっても学び続け、住む人が立川市に愛着や誇りを持って、地域を支えていくまちを目指します。

【子どもと大人がともに育ち】

- ・第4回審議会では、「今後の市の担い手となる子どもの育成が大切」、「子ども目線でのまちづくり」など、子どもを主眼としたまちづくりが大切だという意見がありました。また、人口減少や高齢化対策として、「子育て施策にはより力を入れつつ、立川を選んでもらい、市民に住み続けてもらうという施策に取り組む必要がある」とする意見もありました。一方で、第3回審議会では子どもだけではなく、「子育ての悩みの相談」など、子育てをすすめる大人への支援に関する意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、「まちと共に育つ」(B班)、「子どもが緑の中で安全安心に遊べる町」(D班)など、子どもに関する都市像が多く提案され、どの班も子どもを重要な政策として捉えていました。また、「共に暮らすまち・共に助け合うまち」(C班)、「誰もが

幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川」(E 班)、「子どもが第一のまち！！(オトナも大事!）」(F 班)といった、子どもだけではなく、子育てをする大人も大事とする提案もありました。

- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として、「子育てがしやすい」という意見がありました。
- ・中学生アンケートでは、「大人も子供も笑顔がいっぱいの街 立川」、「家族が住みやすい都市 立川市」、「たのしく、子供がいききと暮らせる都市 立川」など、子どもと大人がともに暮らしやすいまちに関する提案がありました。
- ・次世代職員ワークショップでは、大人も成長できることを伝えるため「大人も育つ立川」という都市像が提案されました。
- ・令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策分野は何だと思いますか」という質問に対して、「子ども」に関する回答が32.6%ありました。

【学び続けられる】

- ・第3回審議会では、「安心して勉強できる場所」や「不登校支援」など、子どもの教育に関する意見がありました。一方で、大人の学びについては、「大人が学ぶ環境が充実しているが、学んだことを地域に生かしていくという連動性が弱い」、「大人に対しても立川市民科を推進し、地域に愛着を持って、地域を支えるという市民性を高める必要がある」といった、地域の担い手を育成するための学びが必要という意見がありました。
- ・市民ワークショップでは、「やりたいことが自然と見つかる幸せなまち」(A 班)、「学びや文化を通じてだれもが生きいきと過ごせる町」(D 班)、「誰もが幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川」(E 班)、「格差のない多様な学びと文化を推進するまち！！」(G 班)といった、年齢に関係なく学び続けることができることに関する都市像が提案されました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として、「充実した図書館」という意見がありました。
- ・中学生アンケートでは、「優しく教え合うことと、にぎわいのある立川」、「優秀な人材が育つ環境のある都市 立川」など、教育環境の充実に関する意見がありました。

【子ども・子育て】分野

○妊娠期から出産・子育てまで ○負担や不安を和らげる ○学童保育所の待機児解消
○保育施設の適正配置 ○子育て・健康複合施設 ③仕事と子育ての両立 ②育成とコミュニティの結びつけ ③楽しく安全に遊べる場所 ○まちと共に育つ ○共に暮らす・共に助け合う ○安全安心に遊べる ○誰もが幸せに育ち ○子どもが第一(オトナも大事) ○大人も育つ ○子育てがしやすい ○大人も子供も笑顔がいっぱい ○家族が住みやすい ○たのしく、いきいきと暮らせる

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>妊娠期から出産・子育てまで、子育て家庭の負担や不安を和らげる施策</u> ・ <u>学童保育所の待機児解消</u> ・ <u>保育施設の適正配置</u> ・ <u>子育て・健康複合施設</u>の効率的・効果的な事業実施

<第2・3回審議会発言内容>

政策に関する意見
<p>③子育てと青少年は、同列に捉えて考えていく必要がある。<福永委員></p> <p>③<u>仕事と子育ての両立</u>も見直していく必要がある。<川口委員></p> <p>③感想ふせんに「子育ての悩みなどを相談したり、互いに協力したりできる仕組みが重要だと感じました。」とあるが、不安解消に向けて何でも相談できることは、福祉・保健の分野でも重要。<宮本委員></p>

施策に関する意見
<p>②<u>小、中、高校生の育成を遊び場やコミュニティと結びつける</u>考えがなかったのが残念。<福永委員></p> <p>③子どもの育成から青少年というのは、小・中・高と幅が広い。ターゲットをどこに絞るのか、漠然とした内容が多い印象。<福永委員></p> <p>③「<u>機会をつくる</u>」という内容があったが、物なのか、人なのかというところまでは具体的に考えられていなかった。<福永委員></p>

事務事業に関する意見
<p>③子どもがボール遊びなど、安心して遊べる場所がほしいという意見が多かった。子どもたちが<u>楽しく安全に遊べる場所</u>を大人が確保していければよいと思う。<辻本委員></p>

<市民WSなど>

市民WS	<p>B班 <u>まちと共に育つ</u></p> <p>C班 <u>共に暮らすまち・共に助け合うまち</u></p> <p>D班 子どもが<u>緑の中で安全安心に遊べる町</u></p> <p>E班 <u>誰もが幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川</u></p> <p>F班 <u>子どもが第一のまち！！（オトナも大事！）</u></p>
次世代WS	<u>大人も育つ立川</u>
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治安にメリハリがある。<u>子育てがしやすい</u> ・ 近くに利用しやすい公共施設（to 子育て世代、高中小学生、高齢 etc） ・ 多くの公園、充実した図書館。安価な居場所が駅の近くにほしい。 ・ こども110番がたくさんいる

中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子供も笑顔がいっぱいの街 立川 ・家族が住みやすい都市 立川市 ・たのしく、子供がいきいきと暮らせる都市 立川
----------	--

【教育】分野

<p>○ICT 機器等の効果的な活用 ③不登校支援に対する配慮 ③地域を支える市民性を高める ③学校・家庭・地域の連携による教育力の向上 ②ボランティアによる学習支援 ③安心して勉強ができる場所 ○やりたいことが自然と見つかる ○共に育つ ○だれもが生きいきと ○誰もが幸せに育ち学べる ○子どもが第一（オトナも大事） ○格差のない多様な学び ○居場所 ○子供の未来 ○教え合う ○優秀な人材が育つ環境</p> <p>④食育</p>
--

<第4次長期総合計画総括>

政策・施策の課題
・学校教育での <u>ICT 機器等の効果的な活用</u>

<審議会発言内容>

政策に関する意見
-

施策に関する意見
<p>②これだけ栄えているのに大学がない。<篠原委員></p> <p>②ギター初心者に教える場所や機会がない。<平澤委員></p> <p>③<u>不登校支援に対する配慮</u>があまり施策に出てきていない。<辻本委員></p> <p>→「不登校」を学校に行く・行かないで一律で考えるべきではない。小学校に行くことだけが正解ではなく、他の場所で色々な活動をしてほしい。<田所委員></p> <p>→学校にこだわらなくても、その子が安心できる場所があって、学習できる場所があることが大事。<辻本委員></p> <p>③施策8「生涯学習社会の実現」について、立川は大人が学ぶ環境が充実しているが、学んだことが地域に活かしていくという連動性が少し弱いのが課題。学校で行われている立川市民科は市民性を養う教育であるが、大人に対しても立川市民科を推進し、地域に愛着持って、<u>地域を支えるという市民性を高める</u>必要がある。地域での担い手不足の現状を踏まえると、喫緊の課題である。<宮本委員></p> <p>③施策7「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」について、市内の小中学校の中にはPTAが廃止になるという現状がある。「<u>学校・家庭・地域の連携による教育力の向上</u>」は大切なことであり、充実を図ることが必要。<萬田委員></p>

事務事業に関する意見	
②	不登校支援の観点から、公民館を借りてボランティアによる学習支援を広げていければよいという話があった。金銭的に塾が難しい家庭向けにも支援できるとよい。＜辻本委員＞
③	寺小屋のようなものをもっと増やしていきたいという意見があったが、公民館を活用して、不登校支援や貧困世帯の学習支援を広げていけないかという話もあった。現在支援を行っている場所に資金を投入し拡充できるとよい。立川市には不登校の児童・生徒が一定数いるので、それに対する支援というのはよく考えていく必要がある。＜辻本委員＞
③	立川市には通信制の学校が多く存在しているので、不登校などで支援を必要としている児童・生徒とつなげられるとよい。＜長井委員＞
③	大人が見守り、 <u>安心して勉強ができる場所</u> が必要。さらに、悩みを抱える児童・生徒と支援団体をつなげていくような部署を持ってもらえると嬉しい。＜長井委員＞

＜市民WS など＞

市民WS	A班 <u>やりたいことが自然と見つかる</u> 幸せなまち B班 <u>まちと共に育つ</u> D班 <u>学びや文化を通じてだれもが生きいきと過ごせる町</u> E班 <u>誰もが幸せに育ち学べる</u> 可能性が無限大なわくわくするまち立川 F班 <u>子どもが第一</u> のまち！！（オトナも大事！） G班 <u>格差のない多様な学びと文化を推進するまち！！</u>
次世代WS	<u>大人も育つ立川</u>
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに利用しやすい公共施設（to 子育て世代、高中小学生、高齢 etc） ・多くの公園、充実した図書館。安価な居場所が駅の近くにはほしい。
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子供の未来</u>を大切に ・優しく<u>教え合うこと</u>と、にぎわいのある立川 ・<u>優秀な人材が育つ環境</u>のある都市 立川

<まちづくりコンセプト2> 【環境】【都市基盤】【都市づくり】

都市と自然が共存し、次世代にわたり快適に暮らせるまちづくり

充実した都市機能と豊かな自然環境が共存する快適な暮らしを次世代に引き継ぐことができるように、都市インフラの計画的な整備やカーボンニュートラルを見据えた環境に配慮したまちづくりを進めます。

【都市と自然が共存し】

- ・ JR 立川駅を中心とした充実した都市機能と砂川地域を東西に広がる農地や玉川上水・多摩川・残堀川、国営昭和記念公園といった豊かな自然環境が共存していることは立川の特徴です。これからの10年もこの快適な環境を守るためには、都市インフラの計画的な整備や2050年カーボンニュートラルを見据えた環境に配慮したまちづくりが必要です。
- ・ 審議会では、第2回・第3回で「再生可能エネルギーのさらなる推進」や「脱炭素」など自然環境に関する発言がありました。また、第4回では、立川市の特徴として「都市機能と自然環境が共存したまち」に関する意見が多くありました。
- ・ 市民ワークショップでは、「自然と人が共存するまち」(A班)、「自然豊かで人も都市もしなやかで強く心が深呼吸できるまち」(E班)など、都市と自然の共存に関する都市像が提案されました。
- ・ 高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「みどり豊か」、「自然が豊かなまち」、「私が行きたいまち」として「星が見える」、「季節毎に景観を楽しめる」など自然に関する意見がありました。
- ・ 中学生アンケートでは、「自然と共存の発展都市 立川」など、「都市と自然の共存」に関するキャッチフレーズが多く出されました。
- ・ 令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策分野は何だと思いますか」という質問に対して、「環境」に関する回答が13.7%、「都市基盤」に関する回答が9.5%ありました。

【次世代にわたり快適に暮らせる】

- ・ 第2回、第3回審議会では、「持続可能な視点」、「SDGsの視点」、「自然エネルギー」、「脱炭素」、「再生可能エネルギーのさらなる推進」など、次世代の環境を守るための意見が出されました。また、第4回審議会では、まちづくりを行う上で重視すべき理念として、「未来への責任」「持続可能」など、自分たちの世代だけではなく、次の世代を考えることが、共通した理念であるという意見がありました。また、高齢化が進展していく中での移動ニーズの変化への対応など、快適な暮らしの維持に関する意見がありました。
- ・ 市民ワークショップでは、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)、「財政基盤の持続的発展を目指すまち」(G班)といった、持続可能性に関する都市像が提案されました。また、「便利に移動でき、食べたいものが食べられるまち」(A班)、「地域をつなぎ、人が行き交うまち」(C班)、「子どもが緑の中で安全安心に遊べる町」(D班)、「自然豊かで人も都市もしなやかで強く心が深呼吸できるまち」(E班)、「緑の遊

歩道で公園が繋がる街」(F班)など、快適なくらしに関する都市像の提案もありました。将来像についても、「住めば幸せ来ても幸せ“あの立川”」(A班)、「だれもが歩みよりつながらいごちよいまち立川」(D班)、「心豊かな住みつづけたい魅力ある発展するまち立川」(G班)といった、快適なくらしを表現した提案がありました。

- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「住みやすさナンバー1立川」、「誰でも落ち着ける街」といった快適さを感じるキャッチフレーズの提案がありました。
- ・中学生アンケートでは、「持続可能、自然豊かな立川」、「100年先でも安心して暮らせる立川市」など、次世代にわたり今の快適な環境を維持することに関する意見がありました。
- ・次世代を担う子どもたちを対象とした、高校生ワークショップや中学生アンケートでは、立川市のまちの利便性や自然環境に関する意見が多くありました。現在の快適な環境を我々の世代だけが享受するのではなく、次世代に引き継ぐことが必要です。

【環境】分野

○カーボンニュートラル ②持続可能の視点 ②SDGsの観点 ②自然エネルギー ②脱炭素 ③再生可能エネルギーのさらなる推進 ②球技や花火ができる公園 ②ボール遊びや手持ち花火ができる公園 ○自然と人が共存する ○緑の中で安全安心に遊べる ○自然豊か ○心が深呼吸できる ○公園が繋がる ○緑豊か ○エネルギーを基盤とする街 ○水がきれいで、おいしい ○星が見える ○自然と共存 ○持続可能 ○緑あふれるクリーン ④森林保全 ④GX ④環境教育

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
・ <u>カーボンニュートラル</u> に向けた加速した取組

<審議会発言内容>

政策に関する意見
②持続可能の視点がまったくない。SDGsの観点が抜けている。G班でようやく、 <u>自然エネルギー</u> 、 <u>脱炭素</u> という言葉がでてきた。市民ワークショップで意見が出なかったとしても、国の方針もあり必要な政策なので総合計画に入れていかないといけないと思った。<甲野委員>
③再生可能エネルギーのさらなる <u>推進</u> に取り組んでほしい。<甲野委員>

施策に関する意見
③カーボンニュートラルについて、必ずしもCO2が地球温暖化の原因とは限らないという話もあるので、車を単純にEV化するという方向には進まないでほしい。EV化したあとのバッテリーの処理が問題になっている。また、ある自治体では、中国産のEV車を単純に導入したが、国内産業を守るという視点が欠けている。そうならないように、慎重に進めてほしい。<平澤委員>

事務事業に関する意見	
②	球技や花火ができる公園があると <u>もっとよくなる</u> と思った。<小林委員>
②	子どもの遊び場について、 <u>ボール遊びや手持ち花火ができる公園</u> があるとよいと思った。<辻本委員>
③	公園のルールに関して、昭和記念公園はボール遊びができるが、やわらかい指定のボールを開発している。ルールだけではなく、そういった使用する物の視点でも考える必要もある。<長井委員>

<市民WSなど>

市民WS	A班 <u>自然と人が共存するまち</u> D班 子どもが <u>緑の中で安全安心に遊べる町</u> E班 <u>自然豊か</u> で人も都市も <u>しなやか</u> で強く <u>心が深呼吸できるまち</u> F班 緑の遊歩道で <u>公園が繋がる街</u> G班 <u>緑豊か</u> で災害に強いまち G班 地産地消で自立する <u>エネルギーを基盤とする街</u>
次世代WS	市民が創るまぶしいまち
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>水がきれいで、おいしい</u> ・ みどり豊か ・ 多くの公園、充実した図書館。安価な居場所が駅の近くにほしい。 ・ <u>星が見える</u> ・ 公園でのボール遊び ・ 季節毎に景観を楽しめる ・ 自然が豊かなまち ・ 公園が多い街 ・ キレイな環境 ・ 自然が多い
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自然と共存の発展都市</u> 立川 ・ 自然豊かで優しい街 立川 ・ <u>持続可能、自然豊かな立川</u> ・ <u>緑あふれるクリーンな立川市</u>

【都市づくり】分野

○有機的なネットワーク ○外出困難等の移動 ②都市機能から連なる自然 ②交通結節点 ②高齢化により変化する移動ニーズ ②南北の交通渋滞 ②自動運転 ③市内の交通のあり方 ○便利に移動 ○多摩地域連携のハブ都市 ○ユニバーサル ○交通の利便性が高い ○駅のまわりだけでなく立川市全体を住みやすく ④自転車

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
・都市計画道路の進捗や各地域の拠点間を結ぶ <u>有機的なネットワーク</u> の模索 ・高齢化に伴う <u>外出困難等の移動</u>

<審議会発言内容>

政策に関する意見
②北側の農業地域、中間の商業地位、多摩川沿いの地域の3つのエリアの違いを立川の魅力のひとつとして捉えている。エリア間の移動が今後課題になってくる。<芦澤委員>
②都市機能から連なる <u>自然</u> という立川の強みをみなさん考えていた。<川口委員>
②開発に関する提案が多くあったことが面白かった。<甲野委員>

施策に関する意見
②立川の <u>交通結節点</u> としての特徴が語られていたが、立川市内の交通についても各班で語られていたのに驚いた。 <u>高齢化が進展していく中で、移動のニーズも変わってくる</u> ことが取り上げられていた。<川口委員>
②交通については、どの班からも意見があった。みなさんが困っていることを知る機会になった。<小林委員>
② <u>南北の交通渋滞</u> のことが気になった。<片岡委員>
②地域の交通について、篠原委員が <u>自動運転</u> の話をしていたが、自分の出身地である福岡の永平寺町で自動運転の取り組みを具体的に始めていると聞いた。立川と永平寺町だと交通量や高齢化率は異なるが、例えば、 <u>自動運転で自宅と病院をつなぐ</u> という取り組みは必要だと感じた。<松浦副会長>
③C班の「河川のあるアクティブな暮らし」をはじめ、川を使った提案がいくつか出されていた。河川に暮らしを広げることによって、商業範囲が広がるし、新たな産業も産まれる。そういった場所への交通手段として、モノレールやレンタサイクル、電動キックボードを使って広域に開発をしていくよいと思った。<長井委員>
③C班、F班などでも提案されているが、 <u>市内の交通のあり方</u> がテーマになっている。高齢者や交通弱者のための細かいモビリティのニーズに答えていくのか、それとも、観光を目的として街の活性化につなげていくのか、様々な切り口がある。オンデマンドやライドシェアの実証実験を行うにせよ、テーマをどこにするのか考える必要がある。<川口委員>

事務事業に関する意見
②砂川地域の交通不便に、トゥクトゥクを使うというのは面白いアイデアであった。<平澤委員>
②モノレールの料金を安くするという意見はよいと思った。<片岡委員>
②モビリティについて、農業地域と都市部をつなぐ交通量の少ない道路は <u>自動運転</u> な

どのモビリティを使うと面白いと思った。＜篠原委員＞
 ③A班の提案である「余裕のある自転車レーン」については、私も普段感じていることである。可能であれば推進してほしい。＜平澤委員＞

＜市民WS など＞

市民WS	A班 <u>便利に移動</u> でき、食べたいものが食べられるまち C班 地域をつなぎ、人が行き交うまち F班 <u>多摩地域連携のハブ都市</u>
次世代WS	<u>ユニバーサルシティ・タチカワ</u>
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>交通の利便性が高い</u> ・ 公共交通機関が多い ・ 交通の便がいい ・ 電車でも車でも来やすい（駐車場を広くする）
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>駅のまわりだけでなく立川市全体が住みやすく、学校で生活しやすい立川市</u> ・ 誰でも快適な都市 立川

【都市基盤】分野

○下水道施設更新 ○都市計画道路 ②歩道が狭い ○ユニバーサル ○道が広い ○誰でも快適 ④補修や更新にAI画像解析やセンサーを活用 ④街路樹の再生・更新 ④街路灯を増やしてほしい

＜第4次長期総合計画総括＞

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>下水道の流域編入後の施設更新</u> ・ <u>都市計画道路</u>の進捗や各地域の拠点間を結ぶ有機的なネットワークの模索

＜審議会発言内容＞

政策に関する意見
-

施策に関する意見
-

事務事業に関する意見
②砂川七番から武蔵五日市道の <u>歩道が狭い</u> ことがアンケートに載っていた。＜平澤委員＞

<市民WS など>

市民WS	-
次世代WS	<u>ユニバーサルシティ</u> ・タチカワ
高校生WS	・ <u>駅周辺以外でも道が広い</u>
中学生アンケート	・ <u>誰でも快適な都市</u> 立川

<まちづくりコンセプト3>【産業・文化・スポーツ】

あふれる魅力に人々が集い、挑戦し、価値を創造するまちづくり

多摩地域における交通の要衝である立川に集まる人や企業が、様々なことに挑戦し、新たな価値を生み出すとともに、交流を深めながら文化芸術やスポーツを楽しむことができるまちを目指します。

【あふれる魅力に人々が集い】

- ・第4回審議会では、「都市機能と自然環境の共存」が立川市の魅力だとする意見が多くあり、その資源をさらに伸ばしていくべきであり、シティプロモーションなどでその魅力をしっかりアピールしていくことが必要であるという意見がありました。また、上記の魅力や「交通結節点」といった立地条件により、多くの人が集まることも立川の特徴であるとされました。
- ・市民ワークショップでは、「活気あふれる“あの立川”と言われるまち」(A班)、「インスタ映えまちがいなし!!活気あふれる街」(B班)、「多摩地域のハブ都市」(F班)のように、人が集まりにぎわうまちをイメージした都市像が提案されました。また、「心豊かな住みつつきたい魅力ある発展するまち立川」(G班)という立川の魅力に関する将来像もありました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が行きたいまち」として「にぎやか立川」や「歩いているだけで楽しいまち」、「ネットに負けない街」など、人が集まりにぎわうまちのキャッチフレーズが提案されました。
- ・中学生アンケートでは、「にぎやかで豊かな生活ができる立川」、「人との交流たくさんの立川市」など、にぎわいや交流に関する意見が寄せられました。

【挑戦し、価値を創造する】

- ・審議会では、『『起業』が立川のキーワードになる』といった意見をはじめとして「創業」が今後の立川の強みとなるという意見がありました。また、「都心に依存しない雇用をここに産むという意味は大きい」、「人口のピークを後ろにずらしつつ市を維持するためにも、雇用を産む、創業を産むというのは必要。」とうい意見がありました。農業については、「産業と自然を共存させて、立川らしいイノベーションを起こしていく。」という意見もありました。さらに、「多様な世代、若者がにぎわっていて、それを行政が支えていくこと、「協働」や「連携」の話になるが、新たな価値になる。」といった「人」に注目した意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、「やりたいことが自然と見つかる幸せなまち」(A班)、「やりたい!を応援するまち」(C班)、「挑戦し、未来のたねをまく、イノベーションがおきる『行きたいところに行けるじゃん』」(E班)といった都市像や「みらいのたねが育ち豊かでワクワクする可能性に挑戦できる立川」(E班)といった将来像など、「挑戦」に関する提案が多くありました。
- ・令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策

分野は何だと思えますか」という質問に対して、「産業」に関する回答が 6.0%ありました。

【産業・文化・スポーツ】分野

○事業継承 ○農地の有効活用 ○医療・介護とスポーツの連携 ②北側の農業地域、中間の商業地位、多摩川沿いの地域 ③創業するなら立川 ③都心に依存しない雇用 ③雇用を産む、創業を産む ②シリコンバレー ②AIの集積 ③河川のあるアクティブな暮らし ③交流人口 ○食べたいものが食べられる ○活気あふれる ○インスタ映え ○また遊びに来たくなる ○やりたい！を応援する ○人が行き交うまち ○コンビニエントファーム ○挑戦 ○イノベーション ○地産地消で自立する ○多様な文化 ○商店街のにぎわい ○働きやすい ○スポーツ観戦 ○町全体が美術館 ○にぎやか ○交流 ○伝統を守る ○文化と暮らしの融合 ④エコミュージアム ④スポーツに親しめる場づくり

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の不在など、<u>事業承継</u>に課題を抱える事業者が増えている ・都市に残された<u>農地を有効活用</u>し、生産性の向上と経営基盤の強化 ・<u>医療・介護とスポーツの連携</u>

<審議会発言内容>

政策に関する意見
<p>②北側の農業地域、中間の商業地位、多摩川沿いの地域の3つのエリアの違いを立川の魅力のひとつとして捉えている。エリア間の移動が今後課題になってくる。<芦澤委員></p> <p>③E班は「<u>創業するなら立川</u>」を掲げている。第4次長期総合計画は、人口のピークを迎えて人口減がはじまることが基盤になっているが、社会増によりピークを後ろ倒しできているのは、立川市に流入してくる層があり、コロナ後、<u>都心に依存しない雇用をここに産む</u>という意味は大きくなっている。人口減は意識するが、ピークを後ろにずらしつつ市を維持するためにも、<u>雇用を産む</u>、<u>創業を産む</u>というのは必要。<川口委員></p>

施策に関する意見
<p>②立川に来て何かをやりたい人、創業したい人、立川に人を集めるということが語られていたが、具体的に何をもって人を集めるのかを、もう一步踏み込んで考えるとよかった。<川口委員></p> <p>②駅前を中心地や昭和記念公園といった特定の場所ではなく、立川全体をアピールしたいということがポイントとしてあることが分かった。<田所委員></p> <p>②<u>シリコンバレー</u>の提案について、<u>AIの集積</u>を図るとよいと思った。<篠原委員></p>

- ②農業地域の活性化として、農業体験をして都市部からの人の流れをつくるという意見があったが、交通網があまりよくないので、整備できたらよいという話があった。
 <辻本委員>
- ③C班の「河川のあるアクティブな暮らし」をはじめ、川を使った提案がいくつか出されていた。河川に暮らしを広げることによって、商業範囲が広がるし、新たな産業も産まれる。そういった場所への交通手段として、モノレールやレンタサイクル、電動キックボードを使って広域に開発をしていくよいと思った。<長井委員>

事務事業に関する意見	
②	農業地域で生産したものをフードバンクなどで活用していくとよいという話もあった。<辻本委員>
③A	A班の都市基盤・産業にある「市内飲食店利用者クーポンの発行」について、自治連では市内の約130の店舗で食事や買い物ができる絆カードを発行している。その充実を市に要望しているところであるが、このような活動が地域のつながりを強くするので、大変よい提案だと思う。<萬田委員>
③B	B班の「地域イベントを増やす」「カフェを増やす」について、地域イベントとはフェス（交流型のコンサート）を想定している。提供者と参加者が一緒に楽しむイベントを行うことにより、地域が活性化し、 <u>交流人口</u> が産まれるという発想は面白かった。<甲野委員>

<市民WSなど>

市民WS	<p>A班 <u>便利に移動でき、食べたいものが食べられるまち</u> <u>活気あふれる</u> “あの立川” と言われるまち やりたいことが自然と見つかる幸せなまち</p> <p>B班 <u>また遊びに来たくなる街</u> <u>インスタ映えまちがいなし！！活気あふれる街</u></p> <p>C班 <u>やりたい！を応援するまち</u></p> <p>C班 <u>地域をつなぎ、人が行き交うまち</u></p> <p>D班 <u>コンビニエントファームシティ</u></p> <p>E班 <u>挑戦し、未来のたねをまく、イノベーション</u>がおきる「行きたいところに行けるじゃん」</p> <p>F班 多摩地域連携のハブ都市</p> <p>G班 <u>地産地消で自立する</u>エネルギーを基盤とする街</p> <p>G班 格差のない<u>多様な学びと文化</u>を推進するまち！！</p>
次世代WS	ユニバーサルシティ・タチカワ
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>商店街のにぎわい</u> ・小型商店も大型商店もある ・レジャー施設が多い ・買い物が便利

	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>働きやすい</u> ・ 遊ぶ場所が多い ・ カフェが多い ・ イベントが多い ・ 夜景スポットがある ・ 映えるスポットがある ・ 商業施設、運動施設が充実している ・ 昭和記念公園の PR をする ・ 季節毎に景観を楽しめる ・ そこにしかないものがある（例：美術館・スタジアム etc） ・ 何でも揃う ・ <u>スポーツ観戦</u>が出来る ・ <u>町全体が美術館</u>
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>にぎやか</u>で豊かな生活ができる 立川 ・ 人との<u>交流</u>たくさんの立川市 ・ スポーツが盛んで、賑わいのある立川 ・ <u>伝統を守り</u>ながら成長していく多様な街 立川 ・ <u>文化と暮らしの融合</u>都市 立川

<まちづくりコンセプト4> 【市民のくらし】【社会福祉】【健康・医療】

誰もがつながり、安心して暮らせるしなやかで優しいまちづくり

世代や性別、国籍、障害の有無などに関係なく、誰もが互いに支え合い、つながることで、主体的に地域課題の解決に参画・協働し、住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らすことができるまちを目指します。

【誰もが】

- ・第2回・第3回審議会では、審議会では、「外国人」や「LGBTQ+」、「男女平等参画」など「人権」に関する意見がありました。また、第4回審議会では、若者から高齢者まで、多様な世代が市政に参画することが大切だとする意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、将来像として「だれもが主役つながるまち～立川ワンダーランド～」(C班)、「だれもが歩みよりつながるいごちよいまち立川」(D班)、都市像として「学びや文化を通じてだれもが生きいきと過ごせる町」(D班)、「認めあい誰もとのこさない町」(D班)、「誰もが幸せに育ち学べる可能性が無限大なわくわくするまち立川」(E班)と「誰もが」というフレーズが多く見られました。また、「年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち」(A班)、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)、「格差のない多様な学びと文化を推進するまち」(G班)といった「多様性」に関する都市像もありました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「外国人も暮らしやすい」など多様性に関する意見がありました。
- ・中学生アンケートでは、「誰もが誰とでも差別の無いように暮らす 立川市」、「どんな年代の人も暮らしやすい都市 立川」など、多様性を尊重する意見がありました。

【つながり】

- ・審議会では、「地域のコミュニティ」についての意見が多くありました。住民以外の多くの人が集まる立川の特徴に着目し、立川在勤・在学者などの立川を訪れる人も市民として受け入れ、新たな地域の担い手となってもらう発想で臨むべきという提案もありました。一方で、「選択的・機能的・ネットワークコミュニティを打ち出していく」、「緩やかなつながりや都合のよい絆を認め、自由に、ストレスなく、不安なくつながれる社会が必要」といった、無理なくゆるやかにつながることができる新しい形のコミュニティに関する議論がありました。
- ・市民ワークショップでは、「地域とつながり育っていく。成長していくまち」(B班)、「地域をつなぎ、人が行き交うまち」(C班)、「相互理解でつながる町」(D班)、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)といった都市像や「だれもが主役つながるまち～立川ワンダーランド～」(C班)、「だれもが歩みよりつながるいごちよいまち立川」(F班)といった将来像など、「つながる」というキーワードが非常に多く見られました。
- ・高校生ワークショップでは、「私が住みたいまち」として「住民の仲がいい」、「地域住民

対象のイベントがある」など、地域のつながりに関する提案がありました。

- ・中学生アンケートでは、「住みやすく和気あいあいしている立川市」など、地域のつながりに関する意見がありました。

【安心して暮らせる】

- ・「子ども・子育て」、「教育」、「市民生活」、「社会福祉」、「健康・医療」などあらゆる政策分野において、すべての市民が「安心して暮らす」ことができるまちを目指します。
- ・第2回・第3回審議会では、「子どもが安心できる場所」、「災害に強いまち」、「駅周辺の治安」、「高齢社会への不安」、「何でも相談できる」など、「安心」につながる意見が多くあり、第4回審議会では「行政が創り出す価値の基本は『安心安全』」とする意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、「やりたいことが自然と見つかる幸せなまち」(A班)、「笑顔あふれる街」(B班)、「共に暮らすまち・共に助け合うまち」(C班)、「子どもが緑の中で安全安心に遊べる町」(D班)、「安心して暮らせる思いやり思いあうお互いさまの『やっぱり立川』」(E班)、「みんなの顔が見える・助け合う」(F班)、「支援を必要とする人を地域が支える！！」(G班)といった「安心」につながる都市像が提案されていました。
- ・高校生ワークショップでは、「安心」に関連して「安心・安全・豊かなまち」、「災害に強い」、「夜1人で歩ける」、「住民の仲がいい」、「キレイな環境」といった意見がありました。
- ・中学生アンケートでは、「安心して暮らせる」、「災害に負けない」、「住みやすく和気あいあい」など、「安心」に関する意見が多く寄せられました。
- ・令和5年度実施の「市政に関するアンケート」では、「今後、優先的に取り組むべき政策分野は何だと思いますか」という質問に対して、「福祉・保健」に関する回答が26.0%、「安全」に関する回答が4.9%ありました。

【しなやかで優しい】

- ・「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」では、「強くしなやかな国民生活の実現を図る国土強靱化の取組を推進するため、この法律を制定する」としています。防災・減災のためのレジリエンス強化の取り組みを「しなやか」で表現しました。
- ・第2回・第3回審議会では、「災害に強いまち」、「災害について小学校などで啓発すべき」、「災害発生時の緊急医療救護所の設置」など、災害に対する意見がありました。また、「人にやさしく」、「何でも相談できる」、「相互理解」など、優しさに関する意見もありました。
- ・市民ワークショップでは、「自然豊かで人も都市もしなやかで強く心が深呼吸できるまち」(E班)、「緑豊かで災害に強いまち」(G班)といった災害に強いまちに関する都市像が提案されていました。また、「年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち」(A班)、「笑顔あふれる街」(B班)、「共に暮らすまち・共に助け合うまち」(C班)、「認めあい誰もとのこさない町」(D班)、「安心して暮らせる思いやり思いあうおたがいさまの『やっぱり』」

り立川』(E班)、「みんなの顔が見える・助け合う」(F班)、「支援を必要とする人を地域が支える！！」(G班)といった優しさを感じる都市像が提案されました。将来像でも、「だれもが歩みよりつながるいごちよいまち立川」(D班)、「なつかしくてあたらしくてやさしいまち立川」(F班)など優しさを表現したものが提案されました。

- ・高校生ワークショップでも、「私が住みたいまち」として「災害強い」という意見がありました。また、「外国人も暮らしやすい」、「高齢者にやさしい」など、優しさに関する提案がありました。
- ・中学生アンケートでも、「災害に負けない立川」という提案がありました。また、「誰もが誰とでも差別の無いように暮らす 立川市」、「どんな年代の人も暮らしやすい都市 立川」、「年齢層関係なく助け合いの輪が広がる町」、「みんなが支え合い、過ごしやすい立川市」など、優しさを感じるキャッチフレーズが多く提案されました。

【市民のくらし】分野

○大規模災害の備え ○レジリエンス強化 ○体感治安の向上 ○地域の担い手不足
 ○多文化共生意識の向上 ②地域のつながり ②コミュニティの向上 ③災害に強いまち ②自治会の加入率低下 ②コミュニティ ②外国人の子どもの支援 ③持続可能な地域活動 ③人権 ②駅周辺の治安 ③災害の啓発 ○国籍に捉われず多様性を受け入れる ○笑顔あふれる ○安全安心に遊べる ○相互理解 ○しなやかで強く ○多様性の尊重 ○つながりつながる ○災害に強い ○地域連携 ○市民が創る ○住民の仲がいい ○外国人も暮らしやすい ○夜1人で歩ける ○人が来るけど安全 ○安心して暮らせる ○災害に負けない ○住みやすく和気あいあい ④ゆるやかなつながり ④親交的コミュニティ

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大規模災害に備えた防災情報の提供や避難行動支援</u> ・ 公共施設の<u>レジリエンス強化</u> ・ 立川駅周辺の<u>体感治安の向上</u> ・ 自転車関係の交通事故への対応 ・ <u>地域の担い手不足</u> ・ <u>多文化共生意識の向上</u>

<審議会発言内容>

政策に関する意見
<p>②どの班も、<u>地域のつながり</u>について提案されていたので、自治連の地域活動を理解してもらっていると感じた。<萬田委員></p> <p>②地域社会がさらに発展していくためには、<u>コミュニティの向上</u>が必要であり、そういった提案があったことはよかった。<萬田委員></p> <p>③市民ワークショップで自分が所属していた E 班では、防災を都市基盤の政策の中で</p>

話し合っていた。〈森林委員〉

- ③自治連では近年、地震・台風・豪雨災害が日本の各地で多発している状況の中で、災害はいつでもどこでも起こりえるという認識を持って災害に備えることをお願いしている。「災害に強いまち」というのは大切なことであり、非常によい提案だと思う。〈萬田委員〉

施策に関する意見

- ②自治会の加入率が低下していることを自分自身も感じている。コミュニティがないと言いつつ、コミュニティのベースとなる自治会に加入していないのはなぜなのか、そういったところが課題。〈芦澤委員〉
- ②一番気になったのが、コミュニティ。継続性や今後に向けた新たなシステムについて考えているところがなかった。〈福永委員〉
- ②A班で外国人のお子さんの支援の話があった。〈篠原委員〉
- ③エコミュージアムという考え方があり、それぞれの地域の様々な団体が色々なことをやることをまとめてひとつのミュージアムに見立てる。立川は環境だけではなく、自然、文化、様々な視点を取り入れてやりたいという若者のプランは面白かった。施策31「市民活動と地域社会の活性化」につながる。〈甲野委員〉
- ③地域で今一番困っているのは、「活動を再開する」とか「活動をどう継続するか」といった生易しいものではなく、コロナで崩壊しつつあることである。活動しなくても地域が成り立つという考え方になってしまっている。持続可能な地域活動を危惧している。〈福永委員〉
- ③多文化共生で外国人問題を文化でくくり、男女平等をコミュニティでくくっている。きちんと人権として取り組むべき。〈森林委員〉

事務事業に関する意見

- ②市内の飲食店利用者のクーポン発行という提案があったが、自治連としても絆カードを発行し、130の商店・企業に協力をしてもらい優待を行っている。一番若い班でそういった提案があったのは、若い世代がこういうことに興味があるということが分かってよかった。〈萬田委員〉
- ②子どもの視点から、駅周辺の治安が悪いことに対して、街灯を増やせば、少し改善するかもしれない、路上喫煙が多いので喫煙所を増やせばよいという意見があった。子育てがしやすい街という観点ではよい意見だと思った。〈辻本委員〉
- ③E班の「環境・安全」には、「残堀川と昭和用水の合流点に逆流防止水門を設置」という防災の意見がある。〈平澤委員〉
- ③立川市は山や海がないので、地域的な問題で災害への意識が低いのかかもしれない。実際は残堀川の氾濫など災害はあるので、都市部でも災害があることを小学校などで啓発するとよいと思う。〈芦澤委員〉
- ③駅周辺の住宅密集地は道が細くて消防車が入れないので、道幅の確保を地域で考える必要がある。〈片岡委員〉

③三師会では、地震が発生し多数の傷病者が出た場合に、立川市内の5つの大きな病院の門前に緊急医療救護所を設置するための会議を行っている。そのような救護所の支援が市として必要ではないか。〈片岡委員〉

<市民WS など>

市民WS	<p>A班 年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち</p> <p>B班 笑顔あふれる街</p> <p>C班 地域をつなぎ、人が行き交うまち</p> <p>D班 子どもが緑の中で安全安心に遊べる町</p> <p>D班 相互理解でつながる町</p> <p>E班 自然豊かで人も都市もしなやかで強く心が深呼吸できるまち</p> <p>E班 多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川</p> <p>G班 緑豊かで災害に強いまち</p> <p>G班 地域連携による住みやすいまち</p>
次世代WS	市民が創るまぶしいまち
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・治安にメリハリがある。子育てがしやすい ・災害に強い ・住民の仲がいい ・ごみなし・タバコなし・清潔感 ・地域住民対象のイベントがある ・キレイな環境 ・外国人も暮らしやすい ・夜1人で歩ける ・人が来るけど安全
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる都市 立川 ・災害に負けない立川 ・住みやすく和気あいあいしている立川市

【社会福祉】分野

○重層的支援 ○支え合いの地域づくり ○介護予防 ○フレイル予防 ○認知症対策
 ○生活困窮者等への自立支援 ②人にやさしく ②高齢社会への不安 ③何でも相談できる ③相互理解 ③多様性の時代 ③単身世帯の外国人 ②高齢者の活躍の場 ③単身世帯の高齢者 ○年齢に捉われず多様性を受け入れる ○地域とつながり ○共に暮らす・共に助け合う ○誰もとりのこさない ○おたがいさま ○助け合う ○地域が支える ○誰でも誰かとつながれる ○どんな年代の人も ○助け合いの輪 ○みんなが支え合い ④ゆるやかな見守り ④地域包括ケアシステム ④介護保険 ④在宅緩和ケア ④超高齢多死社会 ④オーラルフレイル

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>重層的支援体制</u>のさらなる整備 ・ 地域福祉計画の着実な推進 ・ <u>支え合いの地域づくり</u> ・ 高齢化の進展による、<u>介護予防・フレイル予防、認知症への対策</u> ・ <u>生活困窮者等への自立支援</u>の取組

<審議会発言内容>

政策に関する意見
<p>② <u>人にやさしく</u>ということをみんな言っていた。<田所委員></p> <p>② <u>高齢社会への不安</u>について、年齢が高くなるにつれて多くなっていた。<福永委員></p> <p>③ 感想ふせんに「子育ての悩みなどを相談したり、互いに協力したりできる仕組みが重要だと感じました。」とあるが、不安解消に向けて<u>何でも相談できる</u>ことは、福祉・保健の分野でも重要。<宮本委員></p> <p>③ 感想ふせんに「相互理解を地道に促すことは重要だと思います。」とあるが、<u>相互理解</u>を深めることは、<u>多様性の時代</u>ではとても重要。生きづらさを感じる人も立川に住んでよかったと思ってもらえるような社会にすることが大切。<宮本委員></p> <p>③ A 班の「福祉・保健」に「年齢・国籍に捉われず」とあるが、立川市の外国人は確実に増えていて、孤立しがちな<u>単身世帯の外国人</u>も増えている。また、外国人も高齢化しているので、子育て世代から高齢者まで様々な人がいることを前提に目配せをしていくことが大切。<篠原委員></p> <p>③ 各班とも、高齢者・子ども・障害者等への支援があげられている。<片岡委員></p>

施策に関する意見
-

事務事業に関する意見
<p>② <u>高齢者の活躍の場</u>がない。低賃金でもいいから働かせてほしい。<平澤委員></p> <p>② 子育て、高齢者へのタクシーチケットなど色々な案があると思った。<片岡委員></p> <p>③ 日本全国で<u>単身世帯の高齢者</u>が増加していて、立川市でも同様の傾向であると予想できる。G 班の提案にある「見守りサポーターの設置」は伝統的には民生委員の領域だと思うが、立川市では上手く機能しているのか、また人数はどれくらいいるのか。現行のシステムを活用するのがよいと思うが、民生委員の現状を知りたい。<松浦副会長></p> <p>→ 民生委員の活動は、近所の方と顔と顔を合わせて話をするのが大切。民生委員には守秘義務があるため、その活動はあまり表に出てこない。民生委員は 151 人でほぼ充足している。<田所委員></p> <p>→ 全国的に民生委員のなり手不足であるが、立川市は都内の他市と比較しても充足</p>

率が高い。各地域団体から熱意のある人を紹介してもらっていることが要因。地域団体との連携は上手くいっていると思う。＜宮本委員＞

＜市民WSなど＞

市民WS	A班 <u>年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち</u> B班 <u>地域とつながり育っていく。成長していくまち</u> C班 <u>共に暮らす街・共に助け合うまち</u> D班 <u>認めあい誰もとりのこさない町</u> E班 <u>安心して暮らせる思いやり思いあうおたがいさまの「やっぱり立川」</u> F班 <u>みんなの顔が見える・助け合う</u> G班 <u>支援を必要とする人を地域が支える！！</u>
次世代WS	<u>誰でも誰かとつながれるまち</u>
高校生WS	・近くに利用しやすい公共施設（to 子育て世代、高中小学生、高齢 etc） ・高齢者にやさしい
中学生アンケート	・誰もが誰とでも差別の無いように暮らす 立川市 ・ <u>どんな年代の人も暮らしやすい都市 立川</u> ・年齢層関係なく <u>助け合いの輪</u> が広がる町 ・ <u>みんなが支え合い</u> 、過ごしやすい立川市

【健康・医療】分野

○介護人材の確保・育成 ○介護サービス基盤の整備 ○介護予防 ○フレイル予防
○認知症対策 ③ポストコロナの医療体制 ③新興感染症対策 ③サージキャパシティの確立 ②特定検診や歯の検診 ②感染症に対する医療体制 ②緊急医療養護所 ④後期高齢者医療制度 ④介護保険 ④在宅医療 ④訪問診療 ④訪問歯科診療 ④オーラルフレイル ④看取り ④アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

＜第4次長期総合計画総括＞

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展による、<u>介護予防・フレイル予防、認知症への対策</u> ・<u>介護人材の確保・育成</u> ・<u>介護サービス基盤の整備</u>

＜審議会発言内容＞

政策に関する意見
<p>②高齢社会への不安について、年齢が高くなるにつれて多くなっていた。＜福永委員＞</p> <p>③各班とも、高齢者・子ども・障害者等への支援があげられている。＜片岡委員＞</p>

施策に関する意見	
③G 班が提案している「医療体制の強化、多摩立川保健所の機能強化と充実」について、保健所だけではなく、立川市・保健所・医師会などが連携して情報の共有を行うことが必要。＜片岡委員＞	
③ポストコロナの医療体制、新興感染症対策、サージキャパシティの確立など、病院の人・物の確保が必要である。＜片岡委員＞	
③（追加意見）施策 26「健康づくりの推進」について、次の基本事業にとりくむべき。＜片岡委員＞	
○ライフステージに応じた食育の取組と歯と口の健康づくりを推進します。	
○成人歯科健康診査の受診率の向上を図ります。	
○生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた取組を進めます。	
○新興感染症及び再興感染症等の大規模な流行に備えるため危機管理体制の整備を図ります。	
○医療 DX を推進し、医療機関が最新のデジタルテクノロジーを活用することで医療サービスを変革し、環境の改善を推進します。	

事務事業に関する意見	
②特定検診や歯の検診、感染症に対する医療体制のことが書かれていなかった。＜片岡委員＞	
②防災について、災害時は市内の5つの病院の門前に緊急医療養護所を設置することを三師会でも話し合っていて、進めていかなければいけない。＜片岡委員＞	

<市民 WS など>

市民 WS	<p>A 班 年齢・国籍に捉われず多様性を受け入れるまち</p> <p>B 班 地域とつながり育っていく。成長していくまち</p> <p>C 班 共に暮らす街・共に助け合うまち</p> <p>D 班 認め合い誰もとりこさない町</p> <p>E 班 安心して暮らせる思いやり思いあうおたがいさまの「やっぱり立川」</p> <p>F 班 みんなの顔が見える・助け合う</p> <p>G 班 支援を必要とする人を地域が支える！！</p>
次世代 WS	誰でも誰かとつながれるまち
高校生 WS	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに利用しやすい公共施設（to 子育て世代、高中小学生、高齢 etc） ・高齢者にやさしい
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが誰とでも差別の無いように暮らす 立川市 ・どんな年代の人も暮らしやすい都市 立川 ・年齢層関係なく助け合いの輪が広がる町 ・みんなが支え合い、過ごしやすい立川市

これからの10年間は、人口減少や少子高齢化の本格的な進展など、立川市がこれまで経験したことのない時代の到来が予測されます。この難局を乗り越えるため、社会潮流の変化に対応した政策を機動的に実行するとともに、効果的・効率的な自治体運営、健全で持続可能な財政運営および積極的な歳入確保などに取り組み、子どもたちなど、未来への責任を果たします。また、恵まれた立地条件を十分に生かし、多摩地域発展の一翼を積極的に担います。

【新たな時代を切り拓き】

- ・第4回審議会では、第5次長期総合計画の計画期間となる次の10年は、人口減少や少子高齢化の本格的な進展などにより、厳しい行政運営となることが共通認識としてありました。立川市がこれまで経験したことのない、困難な時代に挑む意気込みを「新たな時代を切り拓く」という力強いメッセージに込めました。

【多摩への責任を果たす】

- ・立川は「交通結節点」として恵まれた立地条件を生かして、発展してきました。人口減少が本格的に進展するこれからの時代は、周辺市など多摩地域の自治体との広域連携の重要性が高まります。多摩地域の中心のまちとして、多摩地域全体の発展を念頭に置いて政策を推進することが必要です。
- ・第4回審議会では「立川という立地を生かし、官民連携・広域連携をし、立川の産業のシンボルとして創業を位置づけ、産業を盛り上げる。」といった広域連携に関する意見がありました。また、紹介された立川商工会議所の将来ビジョンは「立川広域都市圏の経済を将来にわたり持続的に発展させる」としています。
- ・市民ワークショップでは、「多摩地域連携のハブ都市」(F班)、「広域連携で生産性が高く効率のよいまち」(F班)という広域連携に関する都市像が提案されました。

【未来への責任を果たす】

- ・第4回審議会では、困難な時代を乗り越えるための方策として、人口減少に対しては、「立川在勤・在学者や健康なアクティブシニアに活躍してもらう」という新たな地域の担い手についての意見や「立川市が魅力的な自治体となり、社会増を増やす」といった立川市の現在の特徴である昼夜間人口比率の高さや社会増の多さに着目した意見が出されました。財政運営に対しては、支出の削減に関して「公共施設の機能の集約」、「必要なサービスの精査」、「自治体DXの推進」についての意見がありました。一方で、税収を増やす意見として「立川を魅力あるまちにする」、「まちの稼ぐ力をつくる」、「高齢者の社会参加を促進する」といった積極的な意見もありました。また、まちづくりを行っていくうえで重視すべき理念として、「若者・子どもの視点」、「包摂的成長」、「市民としての責任感」、「コミュニケーション」といった理念があげられましたが、それらに共通するものとして『未

来への責任』、『持続可能』など、自分たちの世代だけではなく、次の世代を考えている」とする意見がありました。

- ・市民ワークショップでは、「多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川」(E班)、「財政基盤の持続的発展を目指すまち」(G班)といった持続可能性に関する都市像が提案されました。
- ・中学生アンケートでは、「100年先でも安心して暮らせる立川市」という持続可能性に関する提案がありました。

【総合戦略】分野

○民間活力 ○広域連携 ○デジタル化 ○効率的・効果的な自治体運営 ○公共施設の再編 ○デジタルデバイド対策 ○多様な性への対応 ②デジタルの観点 ②双方向のコミュニケーション ②データが円滑に流通できる仕組み ③LGBTQ+など、多様な性への理解の高まり ③人権の分野で遅れている ②立川の情報が伝わりにくい ○あの立川 ○インスタ映え ○知りたい！が届く ○持続可能 ○生産性が高く効率のよい ○みんなでつくる ○最新技術 ○SDGs ○100年先でも安心して暮らせる

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>民間活力・広域連携・デジタル化</u>を含めた<u>効率的・効果的な自治体運営</u> ・ <u>公共施設の再編</u> ・ <u>デジタルデバイド対策</u> ・ <u>多様な性への対応</u>

<審議会発言内容>

政策に関する意見
-

施策に関する意見
<p>②デジタルの観点だと、市民は双方向のコミュニケーションを求めている。市役所から情報は送られてくるが、市民からの情報も市役所に届けたいが仕組みがないという話は「なるほど」と思った。<u>データが円滑に流通できる仕組み</u>、システムが思った。<篠原委員></p> <p>③行政と住民がお互いに情報提供を行うことが今後盛んになっていく。C班の政策「情報」にある「市民と行政が一緒になって情報を届ける仕組み」というところをこれから目指すとよいと思う。<篠原委員></p> <p>③女性総合センターという名称は男性が自分事として考えず、男女平等参画が進まない原因になる。「<u>LGBTQ+など、多様な性への理解の高まり</u>」とあるとおり、男女だけでは分けられない時代であるにも関わらず、古いと思う。<森林委員></p> <p>③東京都や近隣市がパートナーシップ制度を導入しているにも関わらず、立川市は導</p>

入に取り組んでいない。みんなが集まる先進的なまちづくりを打ち出している割には、人権の分野で遅れている。<森林委員>
 ③多文化共生で外国人問題を文化でくくり、男女平等をコミュニティでくくっている。きちんと人権として取り組むべき。<森林委員>

事務事業に関する意見
②立川の情報伝わりにくい。ホームページの構成が複雑すぎる。<平澤委員>
②転入届と同時にダウンロードできる市民専用アプリの提案があった。<篠原委員>
③市の情報ツールを使いやすく改善してほしい。<平澤委員>

<市民WS など>

市民WS	A班 活気あるふれる“ <u>あの立川</u> ”と言われるまち B班 <u>インスタ映え</u> まちがいなし！！活気あふれる街 C班 <u>知りたい！が届く</u> まち E班 多様性が尊重され、つながりつながる <u>持続可能な</u> 楽しい立川 F班 多摩地域連携のハブ都市 広域連携で <u>生産性が高く効率のよい</u> まち
次世代WS	<u>みんなで作る</u> まち“立川”
高校生WS	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに利用しやすい公共施設（to 子育て世代、高中小学生、高齢 etc） ・多くの公園、充実した図書館。安価な居場所が駅の近くにほしい。 ・見える政治。身近なもの。 ・公共施設が充実している ・住民の懐にやさしい
中学生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>最新技術</u>をたくさん使った未来都市 立川 ・立川から世界に 考えよう <u>SDGs</u> ・<u>100年先でも安心して暮らせる</u>立川市

【行政運営】分野

○持続可能 ○生産性が高く効率のよい ○公共施設 ○100年先でも安心して暮らせる ④施設更新に AI 画像解析やセンサーを活用 ④コンプライアンス ④投票率の向上

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
-

<審議会発言内容>

政策に関する意見
-

施策に関する意見
-

事務事業に関する意見
-

<市民WS など>

市民WS	E班 多様性が尊重され、つながりつながる <u>持続可能な</u> 楽しい立川 F班 広域連携で <u>生産性が高く効率のよい</u> まち
次世代WS	みんなでつくるまち“立川”
高校生WS	・近くに利用しやすい公共施設（to子育て世代、高中小学生、高齢 etc） ・ <u>公共施設が充実している</u>
中学生アンケート	・ <u>100年先でも安心して暮らせる立川市</u>

【財政運営】分野

○将来負担増、市税の減少	③地域に人が訪れ、財政基盤が豊かになる	○持続可能	○財政基盤の持続的発展	○100年先でも安心して暮らせる
--------------	---------------------	-------	-------------	------------------

<第4次長期総合計画総括>

政策の課題
・社会保障関係経費や都市インフラ老朽化による将来負担増、市税の減少

<審議会発言内容>

政策に関する意見
③立川市のよいところは、自然も文化も新しい商業施設もあるところとのこと。そこで多様なイベントを行うことで <u>地域に人が訪れ、財政基盤も豊かになる</u> という内容がよかった。<甲野委員>

施策に関する意見
-

事務事業に関する意見
-

<市民WS など>

市民WS	E班 多様性が尊重され、つながりつながる持続可能な楽しい立川 G班 財政基盤の持続的発展を目指すまち
次世代WS	みんなでつくるまち“立川”
高校生WS	・住民の懐にやさしい
中学生アンケート	・金持ち 立川 ・100年先でも安心して暮らせる立川市